

古代日本の 衣服と交通

装う王権
つなぐ道
武田 佐知子 著

衣服と交通——そしてそこから派生する境界・王権・民族標識・異性装などの諸問題……。これらは古代国家の形成、律令国家による国家統合を考えるさいのキーワードとなる。2014年3月に大阪大学を退職する著者による長年の研究成果を集成。

▶ A5判・410頁／定価 7,140円(税5%込) ISBN978-4-7842-1723-6

2014年3月刊行予定

〇〇予定内容目次〇〇

第1部 古代国家と交通

- 第1章 古代における道と国家
公門の内と外／現象形態としての道路と国家
- 第2章 古代における都と村
行基図の特質／中国の地図の特質／道と地方行政区画／村落の道と官道
- 第3章 二つのチカシマに関する覚え書き
——古代の国際的交通をめぐって
- 第4章 古代環日本海交通と滄足柵
古代滄足柵の機能／滄足柵と難波宮造営の共通項／阿倍比羅夫の北征／異民族交易の場の立地条件／沈黙貿易／古代出雲大社と交通／城柵と交易

第2部 民族標識・異性装

- 第1章 「魏志」倭人伝の衣服について
——「横幅」衣・「貫頭」衣の位相
藤原幹の倭人伝の理解／本居宣長の反論／「倭人伝」の信憑性を問題とする諸説／「横幅」衣の諸相／倭人を九州地域の南方系民族と解する諸説／喜田貞吉の「横幅」衣に対する所見／高橋健自の「袈裟式衣」説／猪熊兼繁の「横幅」衣の理解／織布技術と貫頭衣／「横幅」衣＝「貫頭」衣／坪井遺跡出土の人物画像／扶南における「横幅」衣・「貫頭」衣／雲南省石寨山出土貯貝器にみえる人物群像
- 補論1 『一遍聖絵』に見る時衆の衣服——阿弥衣と袈裟
時宗批判の書／阿弥衣と馬衣／袈裟と阿弥衣
- 補論2 笠の山——境界をめぐる一試論
市場の境界／積みあげられた市女笠／市女の市女笠／笠と履きものの供託

- 第2章 日本古代における民族と衣服
中国における礼と衣服／肅慎平定伝承にみる礼教観念／諸蕃と衣服／蕃客入朝の儀と隼人の衣服／藤原広嗣の乱と隼人の朝服／九州の隼人社会と「朝服」
- 第3章 律令国家と蝦夷の衣服——民族標識としての衣服
異類・同類／異類・同類から自類へ／蝦夷の衣服／狭布と蝦夷／陸奥土人と狭布／公服と織機／狭布の細布胸合わせ
- 第4章 奉鬘美人の「男装」について
朝賀の儀と祥瑞奉獻／「元会」について／奉鬘美人の名称／奉鬘美人の袍袴着用／奉鬘美人の出身／鬘の大きさをめぐって
- 第5章 男装の女王・卑弥呼
卑弥呼と中国の衣服／賜与された朝服の性別


第3部 王権と衣装

- 第1章 大化の冠位制について——吉士長丹像との関連で
吉士長丹像をめぐって／形、蟬に似たり／天武朝の冠制と髪がた
- 第2章 王権と衣服
卑弥呼の衣服／ワカカケルと身分標識／「左治天下」の意味するもの／稻荷山鉄剣と衣服
- 第3章 古代天皇の冠と衣服
——中国衣服制の継受をめぐって
日本における袈冕／中国歴代の袈冕
- 第4章 服飾と制度——冠位から位階へ
古代の位階表示／冠の形状と装飾／礼服の冠／例外のもつ意味／漆紗冠と髪型の変化

ただ・さちこ…1948年生。東京都立大学人文科学研究科博士課程修了(史学専攻)。現在、大阪大学大学院文学研究科教授。『古代国家の形成と衣服制』(吉川弘文館、1984年)『信仰の王権 聖徳太子』(中公新書、1993年)『衣服で読み直す日本史』(朝日選書、1998年)など著書多数。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 Tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	古代日本の衣服と交通	本体6,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1723-6	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード	書店番線印	

正倉院染織品の研究

尾形充彦著

宮内庁正倉院事務所で研究職技官として、一貫して染織品の整理・調査・研究に従事してきた著者による、35年にわたる研究成果。正倉院事務所が行った第1次・第2次の古裂調査(昭和28~47年)や、C. I. E. T. A. (国際古代染織学会)の古代織物調査方法に大きな影響を受けて、身につけた調査研究方法により進めてきた正倉院染織品研究の集大成。

【内容】聖武天皇の時代の正倉院の染織品/正倉院の染織/正倉院裂の研究/花唐草獅子文綾について/犀円文錦の研究/正倉院の大幡/裂地としてみた正倉院の調絨/古代織物の織技の研究について/正倉院の花氈と文様/正倉院の染織品の整理/正倉院裂の復元模造/正倉院の絹織物の保存科学 他
▶B5判・416頁/定価21,000円 ISBN978-4-7842-1707-6

日本古代商業史の研究

中村修也著

思文閣史学叢書

人間の生活は商人による多様な交易によって支えられ営まれている。本書では、これらの商人や市に関わる人々の存在形態を、交易の発生から出雲・平城京・平安京などにおける都市空間の生活の場で解析し、日本古代における商人と商業の実態を明かす。
▶A5判・432頁/定価7,560円 ISBN4-7842-1268-X

日中親族構造の比較研究

官文娜著

思文閣史学叢書

近代以降、日本は西洋異文化(近代文化)との融合を果たしたが、中国では不可能であったのはなぜか。本書は日中親族集団の構造を手がかりとして、日本が中国の親族文化、特に宗族制度を受容しなかった理由、またともに「アジア文化圏」に属する両国の、近代以降における西洋異文化との衝突の原因と融合の条件を探る。
▶A5判・430頁/定価7,560円 ISBN4-7842-1241-8

紀伊古代史研究

栄原永遠男著

紀伊の古代史研究を深めた永年の成果。第1部では紀国造と名門貴族である紀朝臣の考察と倭政権との関係などを扱い、第2部で8~9世紀の紀伊に関する経済・文化を論じ、第3部には古文書研究を収録。
【内容】鴨滝倉庫群と倭王権/紀朝臣と紀伊国/紀氏再考/紀氏と倭王権/和泉南部地域と紀伊/律令時代紀伊国における経済的発展 他
▶A5判・430頁/定価7,875円 ISBN4-7842-1199-3

平安時代貿易管理制度史の研究

渡邊誠著

9世紀以降、日本の対外交易は朝鮮半島・中国大陸から来航する海外の商人(海商)によって担われてきた。従来、平安時代の貿易に対する国家の関与は、内外の交易者と対立的に捉えられることが多かったが、本書では海商の貿易活動を国家が管理する「制度」を中心にすえて、その消長を明らかにすることで、新たな貿易史像を呈示する。
▶A5判・396頁/定価7,350円 ISBN978-4-7842-1612-3

着衣する身体と女性の周縁化

武田佐知子編

着衣という共通の素材を通して、さまざまな社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、衣服と身体の表象について解き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。
▶A5判・500頁/定価6,090円 ISBN978-4-7842-1616-1

※壬生狂言古衣裳

松浦俊海監修/野上俊子他編

重要無形民俗文化財「壬生狂言」の衣裳のほとんどは、庶民が身近な死者の菩提を弔うために、その生前の衣裳を奉納したもので、奉納年や没年が墨書されている。制作年代を知ることがむずかしい染色資料にあって墨書年から制作年の下限を推定できるこれらの衣裳は、きわめて貴重な存在である。カラー図版114頁・モノクロ図版32頁。
▶A4判・300頁/定価60,900円 ISBN4-7842-0721-X

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。
▶46判・438頁/定価3,150円 ISBN978-4-7842-1439-6

正倉院宝物に学ぶ2

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008~2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。
▶46判・348頁/定価2,625円 ISBN978-4-7842-1658-1

※仁明朝史の研究 承和転換期とその周辺

角田文衛監修/古代学協会編

仁明朝史研究会の研究成果を元に、様々な分野・視点から仁明朝期の画期的性を解き明かす論文集。【内容】九世紀東部ユーラシア世界の変貌-日本遣唐使関係史料を中心に/九世紀の調唐制-課丁数の変化と偏差/九世紀の輸送体系/「化他」の時代-天長・承和期の社会政策と仏教/平安京野寺(常住寺)の諸問題/銭貨と土器からみた仁明朝 他
▶A5判・356頁/定価7,350円 ISBN978-4-7842-1547-8

大地へのまなざし 歴史地理学の散歩道

金田章裕著

古代日本の条里制から世界地図まで、歴史地理学のおもしろさを紹介するとともに、グローバルな研究を展開してきた著者が折りに触れて書き継いできた諸論稿をまとめる。
【内容】Iなりわいと大地/IIほろかなる大地/III禍福おりなす大地/IV時空を越えたまなざし
▶A5判・322頁/定価4,725円 ISBN978-4-7842-1405-1

京都・大枝の歴史と文化

村井康彦編

「大枝」は桓武天皇長岡京造営にはじまる古い歴史を有し、山城・丹波に通じる交通の要衝である。「大枝」の古代から近代までを論じる10篇。
【内容】大枝風土記への招待(村井康彦)/大枝の自然環境(金田章裕)/老ノ坂と古道(足利健亮)/大枝の曙(永田信一)/園境の里(瀧沢貞子)/動乱期の大地(下坂守)/近代化の光と影(飛鳥井雅道) 他
▶A5判・380頁/定価6,090円 ISBN4-7842-0633-7

北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、あわせて文化遺産としての工芸芸術を紹介する。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆による全34編。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録。
▶A4判・150頁/定価2,940円 ISBN4-7842-1087-3

金唐革史の研究

徳力彦之助著

1470年頃、ルネサンスの最盛期のフィレンツェで生れた金唐革。本書は金唐革の発祥以来の歴史、各国別の金唐革の特色、技法を網羅し、ルネサンス・ロココ・バロック期を中心とする豪華絢爛な貴重な図版を多数収録した豪華本である。皮革工芸家、染織工芸家座右の書。
▶B4判・200頁/定価36,750円 ISBN4-7842-0267-6

※花洛のモード きものの時代

京都国立博物館編

桃山から江戸時代の「きもの」に焦点をあて、当時、ファッションの発信地であった京都で人々が何を装い、どのような美を求めたかを豊富な図版を通してその諸相をあかす。小袖・打掛・胸服・羽織・具足下着・振袖・帷子など肖像画・洛中洛外図・屏風などに描かれたモードもふくめて全225点をオールカラーで収録。
▶A4判・550頁/定価26,250円 ISBN4-7842-1072-5

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。